

令和2年度 学校評価書

山形県立天童高等学校

教育目標:個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献する人間を目指す 「進取」「自律」「融和」

十分に達成した:(A) やや達成した:(B) 少々達成できなかった:(C) 達成できなかった:(D)

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
1 学力向上と学習指導の充実	(1)学習習慣の定着と学力の向上を図る。	①面談週間を設定し、担任と生徒の面談を実施する。 ②学習時間調査を実施する。 ③「高校生のための学びの基礎診断」の評価・反省に基づき改善を行う。	①期間設定については適切であった。年次の先生方のご協力により円滑に実施できた。 ②7月に第1回調査を実施、第2回は1・3年は12月、2年は1月に実施した。 ③学びの基礎診断の結果分析は1・2年 全ての教科担当者から提出していただいた。ただし結果分析については教科単位にとどまっている。 (A)	①過去2年間の調査結果と比較できる書式で、学習時間調査を集計するように変更したい。 ②「学びの基礎診断」および校内での学習時間調査を分析し、成果と課題についてまとめる。
	(2)魅力ある授業づくりを推進する。	①協働的な学習の視点での授業改善を推進する。 ②授業における生徒によるICT教育機器の活用を推進する。 ③保護者への授業公開を行う。 ④外部からの指導助言者の招聘や先進校視察などを通して研修を深める。	①電子黒板についての研修会は昨年1回実施した。今年は事務部長を中心に「ズーム」のオンライン授業について研修を深めた。 ②11月初旬から計画とおり実施し、4名の先生方が見学結果を報告してくれた。公開授業は11月10日(火)に国語科・家庭科で実施した。中学校から4名、教育センターから1名が参加し、多くの校内の先生方が参観して事後研究会でも意見・感想をいただいた。 ③予定通り取り組んだ。 ④今年はコロナ対策として保護者への授業公開は実施しなかった。 (A)	①研究授業週間・公開授業について次年度も同様の時期に実施したい。 ②学校評価アンケートについて 質問項目を検討し、その内容を意識した授業改善に取り組む。
	(3)読書習慣の定着を図る。	①朝読書の指導計画を作成する。 ②朝読書の指導体制を構築する。 ③図書の実用を図り、図書室利用を促進する。	①全ての年次において静粛な雰囲気でも円滑に取り組んでいる。自学等をしている生徒も時々見られるが、年度当初に掲げた「クラスの雰囲気を落ち着かせて、SHRや授業に向けて切り替えを行う」という目的は達成している。 ②朝読書に落ち着いて取り組んでいると答えた生徒は91%だが、朝読書以外にも読書の習慣が身につけていると答えた生徒は48%にとどまった。 (A)	①朝読書について 静かに取り組んでいるのだが、監督者が1年間同じというのは、生徒にとって緊張感が続かないのではないかと。3か月ごと、または前期後期で監督者を変えて朝読書に取り組ませる方法はいかがでしょうか。
	(4)「総合的な探究の時間」を推進する。	①年間指導計画に従って円滑にする。 ②実施状況と課題を記録し、改善すべき点について次年度以降の計画に反映する。	①今年度は新教育課程の議論が中心となっしまい、産人・探究の議論は1月に1回実施したのみだった。2月に第2回を予定している。 (C)	①産人探究委員会について 実態として年次に任せきりの雰囲気があるのは事実で、これを打破するために、委員会を定期的に開催し、職員会議でも定期的に議論する場を作りたい。
	(5)新しい教育課程の編成を行う。	①新学習指導要領への移行と令和5年度からの学級減への対応を見据えた編成を行う。 ②地域を取り入れた教育課程の編成を行う。	①臨時も含めて委員会は10回を教えた。12月16日に教育委員会への提出も済んでいる。 ②議論が深まっている教科もあるが、職員会議での議論は深まっていない。 (B)	①新教育課程についてこれから教育委員会の指導事項が入ってくるはずなので、その時にはまた先生方の全面的なご協力をお願いします。

十分に達成した:(A) やや達成した:(B) 少々達成できなかった:(C) 達成できなかった:(D)

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
2 キャリア教育の推進	(1)高大接続改革を効果的に利用した受験指導を行う。	①大学入試改革初年度にあたり、特に近隣大学に関する正しい入試情報を収集し、3年次担任団と情報を共有し、生徒への対応に遅れがないようにする。 ②大学等への進学用提出書類の作成に向けて、進路部、3年次、3年担任のそれぞれの役割を明確にし、着実に準備が進むように進路部が統括する。 ③学びの記録を習慣化するために、本校オリジナルの学生手帳を定期的に活用させる。	①入試制度の変更や中止が相次ぎ、ほとんどの大学で入試説明会が行われない状況ではあったが、学校推薦型選抜をはじめとして進路部と3年次の情報共有がなされ、生徒にも適宜、情報提供ができた。保護者にも必要な情報を提示でき、大きな支障もなく、出願することができた。 ②SHR、LHR、産人等、積極的にSSPに記入させる機会を作ることができた。活用している生徒は、個人のスケジュール管理に活用したり、授業にも持参して記録したりしていたが、取り組みには個人差がある。 ③3年次に関しては、手帳への必要事項が未記入であったことと、出願書類の様式の確定が遅かったため、提出書類に生かすことはほとんどできなかった。 (B)	①情報共有の体制をより構築していく。 ②SSPを改良したため、次年度は年度当初に取り組みの質を上げるための指導を行う。特に3年次に関しては、記録の重要性を認識させる具体的な手立てを考える。
	(2)生徒の進路実現に向けて、模擬試験や探究学習を活用する。	①模擬試験の「事前学習⇒試験実施⇒振り返り・事後学習」の学習プロセスを定着させるために、模擬試験の結果分析を行い指導に生かす。 ②進路達成の観点から、探究活動の指導が円滑に進むようにサポートを行う。	①コロナの影響はあったが、予定していた模擬試験等はおおむ実施できた。学びの基礎診断についての振り返りや、模擬試験の結果を受けて指導を行った。 3年次は進路別に各種模試を実施したが、短期大学希望者は実力テスト1回のみでよかったかどうかという課題はある。 教科・年次団の協力のもと、共通テスト受験生徒2名の特別授業を設定した。生徒の学習面はもちろん精神面への支援にもつながった。 ②探究学習に関しては、全年次ともそれぞれのテキストを使用しながら実施したが、行事予定の変更により計画通りには進められなかった。 受験に係る推薦書等の提出書類が変更になり、探究活動を始め、様々な活動の実績が求められるようになった。今後指導の重要性が増すと考えられる。 1年次インターンシップは限られた事業所の受入だったが、無事に実施でき、探究活動にも結び付けることができ有意義な取り組みとなった。 (B)	①次年度も、模擬試験を中心に事後学習を行い、生徒への声掛けなど個別指導に役立てていきたい。 共通テストを必要とする生徒への段階的指導が必要である。 ②探究活動は、教務、進路、年次の役割分担を明確にし、進めていく必要がある。年次によって異なる活動でなく、継続的な実施が望まれる。
	(3)第一希望の進路達成のために、教員の指導力を高める。	①職員研修会や各種分析会を行い、一人ひとりの生徒の情報や指導方法の共有化を図る。併せて外部での研修会で得た情報を校内で共有する。 ②全職員で行う3年次生の個別指導については、進路部が必要な情報を指導担当者に提供すると共に、進路部・3年次が指導教員と情報交換をする。	①今年度は、就職、進学推薦試験が期的に重なるという状況だったが、全職員の個別指導が生徒の進路実現につながった。ありがとうございました。 進路部・3年次による情報共有は綿密に行われていた。ただし、調査書様式の確定や推薦書記載事項の内容変更には混乱させられた。 職員研修会ではベネッセの講師を招いて、サイトの利用方法を聞くことができ、その後の推薦入試指導に役立った。 ②1月25日現在、就職内定率92.1%。(35名/38名。未決定者3名中、公務員から就職に変更した生徒は2名。)公務員試験合格者10名。(自衛隊含む)大学・短大及び看護医療系専門学校合格者59名。国公立大学希望生徒2名は共通テストを受験し二次試験および結果待ち。公務員は朝の学習等の取組により、一次の試験結果は概ね良好であったが、二次試験で求められる探究力にやや不足が見られた。 (B)	①年次・進路間の情報共有体制はできているため、年次進路が動きやすいように今後も継続し、進路指導の変化に対応していく。 ②教員の指導力向上のため、次年度新たに「職員研修」の予算を計上する。 ③個別指導に関する全職員の協力を、専門性等も考慮しながら次年度も継続するが、公務員の二次面接指導に関しては一考を要する。(年次対応のままが良いか、個別指導者を決めるか)
	(4)進学・就職それぞれにおいて、3年間一貫した指導を確立する。	①外部講師も活用し、生徒・保護者に向けた進路ガイダンスを、時期に応じて体系的に実施する。 ②国公立大学への進学を目指す生徒についての早期個別指導を、関係業者等の活用も検討しながら、1年次から実施する。2年次のK&Mチーム(国公立大学志望者・医療看護系進学志望者へのグループ指導)の指導も継続し、学校推薦型選抜の変更にも対応し得る体制を整える。	①親子ガイダンスは、コロナの影響で時期を考慮しながらであったが、全年次とも内容的にはほぼ予定通り実施できた。事後アンケートの内容から、生徒、保護者とも概ね満足いく結果を得られたことがわかる。学校評価アンケートでも、進路関係の情報提供は90%以上の高い評価を得た。 ②3年生が2年次から実施したチームK&Mの活動は、計画通りに進まない時期もあったが、学習に対する意欲的な具体例として、入試の書類や面接に活かすことができた。 現2年次K&Mチームの指導は、12月からスタートし、今後進路・年次・教科と連携しながらすすめていく。1年次の早期個別指導に関しては、週末課題に取り組みさせている。 (B)	①親子進路ガイダンスは、次年度も開催時期や内容について、各年次の考え方や生徒実態を反映させたかたちで実施していく。過去の卒業生の体験談、具体的な進路先等の情報を望む声もあったので、可能な範囲で盛り込む。 ②大学受験の早期指導については、これまでの指導に加えて、本気の共通テスト対策が必要になっているため、次年度は早めに盛り込んで継続する。

十分に達成した:(A) やや達成した:(B) 少々達成できなかった:(C) 達成できなかった:(D)

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
3 生徒指導及び特別活動の充実・強化	(1)安全に対する意識の高揚を図る。	①交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上の注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全を確保する。 ②保護者・地域から協力を得て登下校時の生徒の安全の確保に努める。	①交通ルール・マナー遵守等の指導については、指導の内容を検討しながら機会を捉えて行ってきた。事故・苦情についてはペーパー化し資料化してきた。例年より少なかったが、軽微な接触事故は多かった。 ②働き方改革の方針を踏まえ、外部との関係やの在り方については検討を深めている。PTA生徒部との協力関係の維持・向上に努め、警察等との連携・協力を努めてきた。 (C)	①今後も機会を捉えて交通ルール・マナー遵守等に対する啓発活動を行うとともに、これまで実施できなかった交通安全委員会を中心とした生徒の活動も積極的に推進していく。 ②駅から本校までの推奨ルートの再検討を行うとともに、特に学校に寄せられ苦情内容を精査し、次年度以降の交通安全指導に活かしていきたい。
	(2)生徒が自ら企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・部活動を推進する。	①生徒会役員の役割の明確化と各種委員会の位置づけや活動内容の検討を行う。 ②各種委員会の自主的活動を推進する。 ③生徒一人ひとりの活躍できる場を提供し、各種行事等への積極的な参加を促す。特に創立100周年記念事業としての地域貢献活動に積極的な参画を促す。	①今年度の部活動加入状況等と中学における部活動の加入状況を把握し部活動の統廃合を検討していった。 ②新型コロナウイルス感染症防止の観点から、学校行事や生徒会活動が思うように実施できなく、3年次の生徒会役員の活躍の場が少なかった。 (C)	①生徒会の委員会数やその活動内容、部活動の適正数については年内を目途に検討し、生徒会規約の改正と部活動の適正数については次年度当初に提案を行う。 ②生徒の自主的活動とする内容を明確にしていく。 ③一人ひとりが積極的に参加できる学校行事となるよう工夫するとともに、生徒会行事へのかかわり方についても検討する。
	(3)規律ある学校生活を確立する。	①定期的な身だしなみ点検を行い、清潔感ある服装となるよう指導する。 ②携帯電話の使用ルール・時間の順守できるよう啓発活動・管理指導を行う。 ③教室移動や集会時における整列など時間に対する意識付けを行う。	①昨年度までの半分には減らして取り組んできているが、全職員で指導の内容と対処法等について共通認識を持ちながら、実施については年次と連携をしながら取り組みを進めた。 ②携帯電話の使用については、年度当初から校内で使用できる時間等についての意識の定着に向けての活動ができなかった。 ③新型コロナウイルス感染症防止の観点から全校生徒が一堂に会しての集会はなく、全校生徒集会は放送により実施してきたが、内容等について工夫していく必要がある。 (C)	①平常授業時における身だしなみの指導について、全職員が共通認識に立ち指導できるような体制を構築する。 ②携帯電話等の生活指導については、多少、生徒の緩みも見られるため、今後機会を設け重点的な指導も行っていく。 ③集会の在り方等については、今後の状況の推移を考慮し実施を検討していく。
	(4)きめ細かい生徒指導体制を確立する。	①生徒指導上の問題の共有化を図り、年次担任団やヘルプサポート委員会等と連携し、組織として対処していく。 ②生徒の安全・安心を確保できる生活環境と生徒間トラブルの未然防止に努める。	①問題行動等の生徒指導に対する指導や生徒は悪などの情報の共有化を図るため年次等と連携して進めてきた。ヘルプサポート委員会からも個別生徒の対処と指導の在り方について報告がまとめられている。これらの情報をもとにきめ細かい生徒指導ができるような体制作りが必要である。 ②いじめアンケートの結果は例年よりも少なかったが、初期対応についての対応について年次との連携が図れていない部分があった。いじめについては年次が上がるにつれて件数も減少している。 (C)	①バッテリーM2などの結果を生徒指導に生かせるような情報共有の場の設定と、生徒指導の在り方を検討していく。 ②いじめを許さない雰囲気づくりに努め、いじめの内容を深く考察し、生徒の心に寄り添った生徒指導を全職員で行っていく。
	(5)心身ともに健康的な学校生活を確立する。	①スクールカウンセラーによる健康相談活動を充実させる。 ②健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。	①年次との情報交換を密に実施し、問題の早期発見・対応に努めている。 ②スクールカウンセラーによるカウンセリングは、コロナで学校再開が遅れた分は予定をずらして計画し18回実施できる見込みである。 ③現在、カウンセリングを継続的に実施している生徒はいるものの急増している状況ではない。 ④職員の精密検査結果報告率は約87.8%である。 (B)	①カウンセリングを希望する生徒がない場合のカウンセラーの有効利用を考える。(教員向け) ②教員も大いに利用しながら、課題を抱えている生徒について情報交換をし、早期対応を考えられるように支援していく。

十分に達成した:(A) やや達成した:(B) 少々達成できなかった:(C) 達成できなかった:(D)

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
4 安全・安心な学習環境の整備	(1)一人ひとりの危機管理意識を高めるとともに、安全・安心な学習環境を整備する。	①月1回の安全点検の結果をサイボウズで公表し、全職員に周知する。 ②年2回の防災訓練のうち一回は「シナリオ提示型」、もう一回は「抜き打ち」訓練を行い、より実効あるものにする。	①9月にシナリオ型で防災訓練を行ったが、訓練により職員・生徒の防災意識を向上させることができた。 ②防災教育により安全に避難できると評価した生徒は95%に上り、高い評価は得ている。昨年、一昨年と比較しても徐々に上昇しており、この状態を維持していった。 (B)	①日常生活での防災に向けた意識を高め、安全・安心な学校生活を送るように心がけさせたい。
	(2)職員・生徒を守る視点で情報環境整備を行う。	①県情報セキュリティ規定の周知を徹底し、問題発生皆無を目指す。 ②HPについては、デザイン・運営方法等の刷新を図ったのち、全職員が正しい更新方法を身に付けるような取り組みを行う。	①情報セキュリティに関する問題は、いまだ発生していない。 ②さまざまな行事がコロナの影響で行えないために、HPの更新も計画通りには進んでいないが、約半数の先生方が更新をおこなった。 (C)	①県情報セキュリティ規定を、機会があるごとに周知する。また、次年度においても、一人一回以上のHP更新ができるようにサポートしていく。

十分に達成した:(A) やや達成した:(B) 少々達成できなかった:(C) 達成できなかった:(D)

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
5 家庭や地域との連携強化	(1)校外の様々な地域ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」を育てる。	①生徒部との連携を強化し、「一人一ボランティア」を徹底する。 ②地域の行事に進んで取り組んでいくことで、地域の一人としての参加を意識し、貢献する態度を育てる。	①東日本大震災の被災地である寒風沢島へのボランティアを10年連続で行い、今年度は校内で制作したうちわ、カレンダーなどを贈るなどの活動に生徒103名が取り組んだ。ボランティアの報告件数としてはのべ30人と非常にすくない。 ②ボランティアや社会貢献活動への積極的な参加については保護者、生徒共に8割を切る結果であり、状況を考えれば、参加への意識は高いと言える。 (C)	①今後も、いままでのような形での活動は厳しい状況であるが、今できる活動を様々な組織と連携して行っていきたい。
	(2)保護者と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に行う。	①PTA諸行事の出席率80%以上を目指す。 ②PTA諸活動の見直しを図る。	①今年度はPTA総会を行うことができず、第1回のPTA評議員会の参加率は90.4% (昨年は92.0%)であった。 ②各専門部が可能な範囲で、専門部活動を工夫しながら進めている (C)	①専門部の活動を活発に行うことは困難であり、PTA活動への保護者からの評価も75%であり、この状況下での活動を再検討する必要がある。
	(3)創立100周年に向けて準備を進め、式典に臨む。	①同窓会や他の諸機関との連携を図り、円滑な準備で推し進める。	①実行委員、職員の協力のお陰で、無事に実施することができた。 (B)	①今年度実施できなかった事業について、実行委員を中心として引き続き事業を推進していく。
	(4)生徒の活動をはじめ学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	①保護者や地域への情報提供として「広報天高」を年4回発行する。 ②HPを計画に沿って更新して、生徒の活動が見えるような情報発信をする。	①保護者からの評価は昨年度88%に対して86%との結果であったが、過年度の結果と比較すると現状維持と評価できる。 ②約半数の先生方が更新作業を行った。 (C)	①HPの更新に関しては、情報を積極的に発信できる雰囲気をつくる必要がある。

学校関係者評価委員会から

○ 新型コロナの影響、共通テストについての文科省の対応の遅さ、また、授業時数の確保について、コロナと自然災害(大雨・大雪など)があり、大変であったと思う。

そんな中、学校評価アンケートで「天童高校に来てよかった」の評価が、生徒も保護者も高いのが素晴らしい。

また、多様な進路へ目配りをしているのが印象的である。短大・大学は、文科省から「多様なバックグラウンドを持っている方(外国人・社会人など)を高等教育に受け入れるように」と言われている。終身雇用ではなくなりつつある今の日本で、もう一度学校に行こうという方もいる。「底力・生き抜く力・勉強し続ける力」を学校でつけなくてはいけない。そういった点でも、天童高校の多様な進路対応は素晴らしい。

○ 今年の生徒は大変かわいそうであった。部活動の大会等はもうないが、進路指導を最後まで頑張ってほしい。「天童高校に入学して(させて)よかった」が、一番の評価である。子どもたちを育てるのは、いい所を伸ばしていくことと足りない所を補っていくことのバランスである。高い頻度で災害がやってくる時代なので、オンライン学習等の整備が必要。現場から県に声を上げていくことが大切である。指示待ちではなく、発信力と伝える努力が高校には求められている。教育関係者のワクチン優先順位は高くあるべきだと思う。

私たちのコロナ禍のテーマは「やめること・見直すこと・加速すること」。「やめること」が最も難しいが、重要である。学校も「やめること」に力点を置いてほしい。

学校や親の考える「身だしなみ」と、生徒の考える「おしゃれ」のバランスが大切で、なかなか埋まらない壁である。しかし、ホワイト校則はあり得ない。ブラックではいけないが、グレーくらいの校則は必要である。ある程度の縛りはあってしかるべき。

いじめ問題は、1個のトラブルがあればたくさんあるので、目配りしてほしい。昔より繊細な生徒が多いだろうから、メンタルを大切にしてほしい。

今後は、県立高校だから大丈夫、ということはないと思う。学校間の競争に危機感を持ってほしい。天童に天童高校がないと困る。天童市民全員の意見である。

○ 公開授業の際の、佐藤教諭の国語表現の授業は、生徒が生き生きとしており、内容も素晴らしかった。昔とは違って、生徒と先生の距離が短く、親しみがあると感じた。

朝7時半ごろ、小学生の見守りの際に天童高校生も見かける。しっかり挨拶してくれる。一時不停止の自転車にハッとしたこともあるが、全体的にはマナーもよい印象である。

○ 「天童高校に入学させてよかった」が高いのがすばらしい。